

# 令和7年 水稲播種・育苗のポイント

## 1 採種圃産種子について

表1 採種圃産種子の発芽率(令和7年播種用)

品種	令和5年産 備蓄種子	令和6年産採種	
		未消毒種子	消毒済種子
ななつぼし	-	96.9	93.3
ゆめぴりか	92.6	96.7	93.7
きらら397	-	95.7	94.4
ふっくりんこ	95.9	97.2	94.8
おぼろづき	92.6	-	-
そらゆたか	86.0	94.8	92.7
そらゆき	94.7	-	-
そらきりり	94.9	97.9	-
ゆきひかり	92.6	-	-
えみまる	-	97.9	95.6
きたくりん	-	98.4	-
ほしのゆめ	-	96.1	-
大地の星	-	95.1	-
あやひめ	-	94.1	-
吟風	93.3	-	-
彗星	86.8	-	-
きたしずく	-	98.8	-
風の子もち	93.6	94.1	93.1
はくちょうもち	93.5	96.5	-
きたゆきもち	87.6	96.2	95.4
きたふくもち	93.9	-	-

※「-」は配布予定なし

### 使用する種子の注意点

- 種採取圃産の種子を用いる  
未消毒種子は必ず適切に種子消毒を行う。
- 温湯消毒種子の注意点
  1. 褐条病に対して効果が劣るため、循環式催芽器を使用して催芽する場合は、必ず食酢と組み合わせる(酸度4.2%穀物酢50倍処理)。
  2. 蒸気式催芽でも浸種最後の水交換時に食酢(酸度4.2%穀物酢50倍)で48時間処理することで褐条病に効果がある。
  3. 温湯消毒後は籾が無菌状態であるため、ばか苗病菌等に汚染されやすいので、保管場所を清潔に保つよう注意する。

## 2 適正な浸種と催芽について

### 浸種のポイント

- 水温と日数の目安と浸種の注意点
  1. 平均水温11~12℃とし、浸種日数を5~6日間とする。
  2. 水温が高いと吸水中に一部で発芽を始めたり、水温が低いと吸水が不十分になり不発芽籾が多くなる。
- 高温年産種子の注意点
  1. 登熟中期が高温で経過した年(令和5年)は種子の休眠が深くなるので、高温年産種子は浸種日数を2~3日延長して7~8日間とする。
  2. 適正な水温・日数を厳守しなければ出芽率が低下する恐れがあるので注意する。
- 作業の注意点
  1. 品種の取り違え防止のため、浸種・催芽では網袋の色を変えたり、荷札などを付けて作業する。
  2. 浸種の水は清水を用い、2日に1回水の交換をする。

令和6年は、浸種中に発芽が始まってしまい、催芽が不揃いになるという現象が見られました。これは浸種期間である4月中旬が異常な高温で経過し、浸漬水の水温が上昇したことに原因があると考えられます。水温が15℃以上にならないよう注意しましょう。

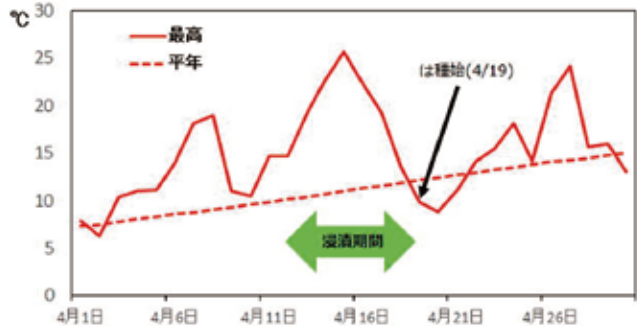


図1 令和6年4月の最高気温推移(岩見沢アメダス値)

以下4ページに続く

2025年3月

# 4 育苗管理のポイント

(主に中苗・成苗の場合)

時期 播種 → 出芽揃 → 1.5葉 →

→ 胚乳消尽期 (2.5~3.0葉) → 移植1週間前 → 移植

目標 出芽の斉一化 根の発育促進 苗の徒長防止

目標 苗質の充実化(硬化)

要点 《置床出芽》温度確認 25~32℃で5日前後

温度管理

二重トンネルや二重被覆で保温

換気の目安 35℃ → 二重被覆除去ハウスの肩換気

換気の目安 ~0.5葉まで 25℃を目標 0.5~1.5葉まで 20℃を目標

換気の目安 20℃以上又は晴天日

換気の目安 35℃ → 二重被覆除去ハウスの肩換気

換気の目安 35℃ → 二重被覆除去ハウスの肩換気

要点 外気温に十分馴らす、かん水はたっぷり行う

温度管理

※胚乳消尽期は、環境に敏感で障害に対する抵抗力が劣るので、急激な高低温にあわせないように管理する。

換水の目安 2.0~2.5葉時 窒素成分量 1g/箱 中苗マット 窒素成分量 2g/箱 密播中苗

換水の目安 2.0~2.5葉時 窒素成分量 1g/箱 中苗マット 窒素成分量 2g/箱 密播中苗

換水の目安 2.0~2.5葉時 窒素成分量 1g/箱 中苗マット 窒素成分量 2g/箱 密播中苗

かん水

かん水

①かん水はできるだけ午前中に行い、夕方方は避ける。

②かん水回数を減らし、晴天日にたっぷり。

③必要なときに十分かん水を行う。

④必要に応じて、晴天日にたっぷり。

⑤必要なときに十分かん水を行う。

かん水

かん水

①水分要求量の増大に見合ったかん水を行う。(1日2回以上の場合も)

②水分不足の危険

③かん水過剰の危険

④水分不足の危険

⑤かん水過剰の危険

追肥

追肥

①苗箱の設置は午後3時まで!

②二重被覆の取り外しは遅れてはダメ!

③置床に根を伸ばす様式(成苗ポット、箱ポット)では事前に置床の水分を確認する。

④病虫害発生時には所定の薬剤で防除する。

追肥

追肥

①水分要求量の増大に見合ったかん水を行う。(1日2回以上の場合も)

②水分不足の危険

③かん水過剰の危険

④水分不足の危険

⑤かん水過剰の危険

## 催芽のポイント

### ●温度と時間の目安

1. 適温は30～32℃で、時間は20時間程度を目安とする。

### ●催芽の注意点

1. 浸種後、新しい水に取り換えて実施する。
2. 催芽の程度はハト胸～2mmまで。目安の時間が近づいたらこまめに芽の状態を確認する。
3. 催芽後は、余熱で芽が伸びてしまわないように籾を広げる等して冷ます。

令和6年は、催芽後に芽が伸びすぎてしまう事例が多く見られました。熱がこもらないように適切に扱しましょう。

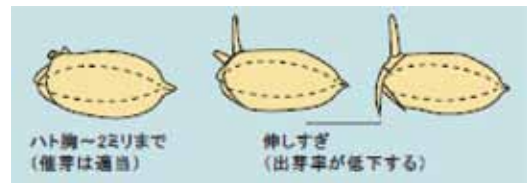


図2 催芽の程度(星川、1975年)



写真1 催芽が適当な状態の籾

## 3 播種・育苗に関する目安

表2 育苗様式別の播種・育苗に関する目安

項目	単位	稚苗 箱マット	中苗 箱マット	成苗 ポット	高密短 箱マット	密播中苗 箱マット※1
播種量(乾籾)	g	175-200	75-100	38程度	250-300	200程度
// (催芽籾)	cc	350-400	150-200	75程度	500-600	400
播種期		4月下旬	4月後半	4月中下旬	4下-5上	4月後半
育苗日数	日	20～25	30～35	30～35	20前後	30～35
10a箱数	枚	20程度	34～40	49～56	11～15	18程度
10a播種量	kg	3.5～4	3～4	1.7～2	3.8	3.6
草丈	cm	8～12	10～12	10～13	10～12	10～12
葉数	葉	2.0～2.5	3.1以上	3.6以上	1.8以上	2.6以上
第1鞘高	cm	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下	2.5以下
乾物重	g	1.0以上	2.0以上	3.0以上	1.0以上	1.6以上
移植早限※2	℃	11.5	12	11.5	— ※3	— ※3
移植晩限		5月25日	5月31日	6月5日	中苗に準ずる	中苗に準ずる
m <sup>2</sup> 株数	株	25以上	25以上	22～25	25以上	25以上
一株苗数	本	4～5	3～5	2～4	3～5	3～5

※1 密播中苗箱マット: 植物成長調整剤(ウニコナゾールP)を催芽前処理

※2 移植早限は移植後5日間の平均気温で示す

※3 設定がない

1. 播種量が多すぎると徒長、ムレ苗の原因となる。各様式の目安の範囲内の播種量とする。
2. 近年育苗期間後半(5月後半)の気温は高い傾向である。育苗ハウスの温度(苗の葉先付近)が25℃を超えないよう温度管理に注意する。
3. 苗の葉数が目標に達する日数は短くなっている。30日程度で移植できる作業計画を立てる。
4. 移植時苗形質に達した時点で、なるべく苗が若い状態で移植することを心掛ける。

育苗管理の実際は2ページに戻る

北海道農産協会

